

No.41 2022/3/31

レジオン・ヴィヴィー 一地域で暮らすー

Region Vivir

Region Vivirは、スペイン語で地域で暮らすという意味です。これからは障がいがあっても地域で豊かに暮らす時代だと思います。

『でもしか介護・福祉職』であって良いのではないか！

社会福祉法人 県央福祉会 理事長 佐瀬睦夫

「でもしか先生」とは

皆さんは「でもしか先生」という言葉をご存じでしょうか。「でもしか先生」とは、日本各地において学校の教師が不足していた第二次大戦終結から高度経済成長期に教師の採用枠が急増し、教師の志願者のほとんどが容易に就職できた時代に、他にやりたい仕事がないから「先生でもやろう」とか特別な技能がないから「先生にしかなれない」などといった消極的な動機から教師の職に就いた人のことを指します。無気力で不活発な教師に対する蔑称です。
べっしょう



先日、インターネットを見ていたら次のような文章を見つけました。約20年も前の追憶の文章です。

『教員採用試験を受験して、私は不合格

になった。(中略) たしかに、不合格になるべくしてなった。「なぜ教師になりたいのですか」「なぜ○○県の教員になりたいですか」「○○県の教員像について思うことは」……そんな質問に答えられない。ただ教師になりたい、とぼんやり思っていただけである。といえば、「でもしか先生」って大学で習ったけれど、自分はきっと「でもしか先生」なんだろうと。教育現場では、情熱があって、熱心な先生を求めていたはずだ。しかし、私にはそこまでの熱量がない。強いて言うなら、私の教育のポリシーは「他人の失敗に寛容になり、カバーできる人間になれ」である。(中略) 私は教師になりたいと思う気持ちを貫いて無事にそのままなれたが、周りにはすぐに教員を辞めた人もいるし、過労や精神を病んで休職した人もいる。今、進路に悩む大学生に声をかけるなら、(中略)、次



目次

● 『でもしか介護・福祉職』であって良いのではないか！（理事長 佐瀬睦夫）	1
● ふれあいコンサート 2021	4
● 県央福祉会ヒストリー ぼむ	5
● 店舗紹介（餃子いちばん）	9
● 教えて！あなたの事業所（未来わかまつ）	10
● 新施設紹介・2020年度助成金受給・編集後記	12

の3つになる。

- ・教師になりたいと思う気持ちが、とりあえず大事。
- ・教師に「でも」なるか、教師「しか」なるものがなくても、構わないと思う。
- ・向いてないと思ったら早々あきらめて次の仕事をみつけよう。』

余談ですが、「でもしか公務員」という言葉もあるようです。「でもしか先生」と同様に当時、日本全国に行きわたっていた言葉だと思われます。

仕事は多忙でも苦にならなかった 若かりし日の思い出

「でもしか先生」という言葉は、今から50年以上前によく使われていましたが、私は子どもに関わる教師はあこがれの職業でした。しかし、当時の私は教師になる専門知識もなく教員試験に合格する力もありませんでした。そこで飛び込んだのが福祉の世界だったのです（後に保育短大の講師・福祉専門学校の講師を20年以上も務めました）。

当時は、学生運動の激しい時期で国家の政策や政府のやることに何でも反対を唱え、日々デモ行進を行い、講義や授業はそっちのけで、学

内では左翼同士の衝突を日々繰り返す有様でした。そんな日々に当時の体制や政治に嫌気を差し、社会の底辺にいる子どもの世界（児童養護施



設）に進んだのです。

多忙な毎日で1日18時間勤務は当たり前、夜勤を含め3日間連続（睡眠時間も取れず）の勤務もありました。それでも苦にならず充実した暮らしに満足していました。当時、民間社会福祉施設で働く若い職員たちは「清貧」という言葉を口にし、「縁の下の力持ち」「一人扶持は食えないけど二人扶持は食える」と嘯いていました。

当時大学新卒の若者男女6人が同期で入職したのですが、勤務明けの午後9時から東名高速を使って御殿場まで私の中古の日産ブルーバードで仲間とドライブし、帰宅は12時過ぎ。翌朝は6時からの勤務という日もありました。それでも楽しく充実した日々を送ることができました。

きっかけは「でもしか福祉職」でもいい

「でもしか先生」「でもしか公務員」という言葉が流行した日本の当時の職業観が、介護職・福祉職に移行した時期がありました。まさに「他にやりたい仕事がないから『福祉でもやろう』とか特別な技能がないから『福祉職にしかならない』」と言ってこの業界に入ってきた人たちです。

近年は介護の分野で働いていた人が、障がいの分野で働くケースやその逆のケース、また、保育の分野で働いていた人が、何らかの理由で障がいの分野で働きたいといった分野の垣根



を超えた動きが活発化しています。

分野を超えて人が動くことは決して悪いことではありません。特にここ数年、介護分野から移動してきた人は、支援や介護の技術を身に付けていて、手際よく行動ができる言葉使いも丁寧で、障がいのある人にきちんと関わっている人が多くなっていると実感しています。

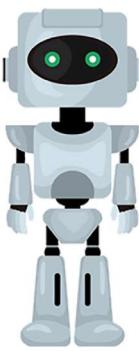
介護・福祉の職場は常勤、非常勤とも「慢性的な人手不足」の状況にあります。この現状は、給料のアップだけで解決するとは到底思えません。専門性や人間性を高めて、介護や福祉の仕事の魅力ややりがいを高め、「介護・福祉の業界で活躍したい」という人を増やしていくかなくてはいけません。

私たちが対象としている利用児・者一人ひとりには感情もあり、夢も希望も叶えたいという思いもあります。ただ、それがうまく表現もできず「もがき苦しんでいる」かも知れません。

私たち介護・福祉職員は、利用児・者一人ひとりの特性や個性を理解し・つまずき・遅れ・疾病・障がいの特性を正しく学び、専門的な知識・技能を学び、質の高い介護・福祉・支援力を身に付けて人間豊かで、他の人々に寛容な態度と、相手を許す大らかな姿勢を身に付ける必要があります。

私は、ここ 10 年以上にわたって専門性を向上させ、人間性を豊かに成長して欲しいと職員に伝えています。福祉の現場にもデジタル化・ロボット化が進み、効率化と省力化が図られようとするなど、介護・福祉の分野は劇的に変わろうとしています。私たちはロジック（論理）

だけで介護・支援・保育・療育・医療分野を熟（こな）すのではなく、「どんな人の命も大切にされる」「利用者目線の支援を」大切にした社会をつくっていく使命があります。



冒頭で紹介した文章を介護福祉に置き換えてみました。

- (1) 介護・福祉職になりたいと思う気持ちが、とりあえず大事。
- (2) 介護・福祉職に「でも」なるか、介護・介助・支援職「しか」なるものがなくても、構わないと思う。
- (3) 向いてないと思ったら早くあきらめて次の仕事をみつけよう。

きっかけは「でもしか福祉職」であってよいと思います。入職後にいかに福祉の専門性や人間力を身に付けられるか、仕事にやりがいを感じることができるかによるのだと思います。



「ふれあいコンサート 2021」

テーマは“どーんといつてみよう”

2020年11月12日、やまと芸術文化ホールメインホールにて「ふれあいコンサート 2021」が開催されました（主催：県央福祉会後援会／共催：社会福祉法人県央福祉会）。16回目の開催となる今回は、神奈川県出身のアーティスト「壱師美穂 いちし with 伊勢賢治」です。



冒頭、後援会の小川肇会長が「一流のメンバー、一流の演奏を通じて、皆さんに笑顔になってほしい」と挨拶。続いて、県央福祉会の佐瀬陸夫理事長が「コロナ禍で様々な活動が二年近く制限されてきた。最近、落ち着いてきたが、このまま沈静化することを期待したい」と述べました。



第一部は伊勢賢治さんのサックス演奏でスタート。場内に響き渡る「名探偵コナン」メインテーマのサックス演奏に皆、魅了されました。



二曲目に壱師美穂さんが金色に輝くドレスを身にまとって登場。「本日は皆さんよく知っている楽曲をお届けします」と会場に呼びかけ、歌がスタート。なじみのあるメロディーに皆、手振り身振りを交えて参加し、大いに盛り上りました。

30分の休憩をはさんで第二部が開幕。「飾りじゃないのよ涙は」を皮切りに四曲が披露されました。アンコールは「世界に一つだけの花」。なじみのメロディーが流れると、場内のあちこちで、壱師さんの歌唱に合わせて楽しく手振りをする参加者の姿が印象的でした。

最後に、エヌ・クラップ、かたくりの里、希望の家、ふきのとう舎、グランツ遠藤の利用者さんが壱師さんと伊勢さんはじめ演奏いただいたバンドメンバー一人ひとりに感謝の気持ちを込めて花束を贈呈しました。



演奏された曲目

第一部

名探偵コナンメインテーマ（キミがいれば）

やさしさに包まれたなら（荒井由実）

Let it go（『アナと雪の女王』テーマ曲）

ありがとう（いきものがかり）

ヤングマン（西城秀樹）

第二部

飾りじゃないのよ涙は（中森明菜）

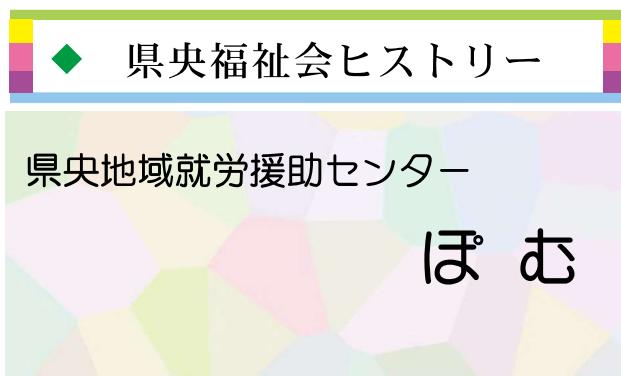
パプリカ（Foorin）

ふるさと（唱歌）

川の流れのように（美空ひばり）

アンコール

世界に一つだけの花（SMAP）



県央福祉会で就労支援の先駆けとなった「県央地域就労援助センターぼむ」が、本年4月で開設20周年を迎えます。そこで以下、開設に携わった柳川圭介さん（現・人事部、平成21年度～28年度3代目所長）と、現所長の大箭忠司さんに、過去から現在、そして今後についてお話をうかがいました。

——ぼむ開設の経緯を教えてください。

柳川：「県央地域就労援助センター ぼむ」は、2002年4月1日に、県央圏域主管市町村である海老名市に開設しました。そのころ神奈川県は、各障害保健福祉圏域に1か所ずつ就労援助センターを設置することを計画しており、県と障害保健福祉圏域の市町村の補助金事業である地域就労援助センター事業としては10か所目でした。

開所当時は、支援費制度が施行される直前であり、障害者自立支援法や障害者総合支援法などではなく、まだ措置制度の色合いが残る社会福祉情勢でした。ただ開所当初から、三障がい一元化ということを念頭に、身体障がい、知的障がい、精神障がいの方々を対象に相談支援・就労支援をする形をとりました。当時からすると

新たな挑戦であり、法人の理念である先駆的な事業展開を具象化した事業所であったと思います。

——開設の前後で、柳川さんが関わった中で思い出深いエピソードはありますか？

柳川： 新規事業の開所ということもあり、

2002年4月1日に現住所の事務所を行ったところ、机も椅子もパソコンもなく、床だけの空きテナントの様相でした。その日に初めて会った職員と、一緒に床の雑巾がけをしました。4ヶ月25日の開所式に向けて、什器備品等がそろい、パンフレットなどの作成をするなど、新規事業ならではの慌ただしさを日々感じていたことが思い出されます。

就労支援業務が本格化すると、就労を希望される相談者の多くは精神疾患を患っている方が多く、相談業務の難しさを痛感する日々でした。職場開拓業務も並行して行い、毎週月曜日の求人折り込みチラシを見てスクラップをしては、飛び込み営業をして障がい者雇用の理解や普及に多くの時間を費やしていました。開所の1年目で名400枚以上を企業開拓先で配ったことは、今も鮮明に覚えています。ハローワークの

窓口職員からもいろいろと情報をもらいながら、地域連携の仕方などをOJTで学んでいき、地域でのネットワークを築き、業務遂行の推進力にしました。

開所1年目でとても印象に残ったエピソードとしては、インタークで母親の陰に隠れて人差し指の絆創膏しか触っていなかった17歳の男性が、就労して、会社帰りにぼむに立ち寄り、給料で好きな漫画を購入した話をしたことが思い起こされます。インターク時にもじもじしていた彼が、1時間近く意気揚々と好きな話題を私に投げかけ、目をキラキラさせ「毎日が楽しい」と言ってくれた時は支援者冥利に尽きました。その時、彼に書いてもらったアンケートの「ぼむに来てよかったです?」の設問に、彼はこう答えてくれました。「はたけてよかた」と。この言葉は、私がこの福祉業務をしていくうえでの大きな礎となっています。

初年度は就労者を10名出すことができました。ハローワークなどの関係各所からは健闘を称える言葉をいただき、以後、就労支援業務の媚薬に陶酔をしていきました。



2011/12/14

——大箭所長に受け継がれた現在のぼむの事業内容を教えてください。

大箭： 国・県から委託されている「障害者就業・生活支援センター事業（雇用安定事業・生活等

支援事業）」と、市町村（現在座間市のみ）・県からの補助金事業の地域就労援助センター事業があります。

神奈川県の県央圏域7市町村（座間市、海老名市、厚木市、綾瀬市、大和市、愛川町、清川村）にお住いの障がいをお持ちの方を対象に、就労希望のある方の求職支援、就労中の方の定着支援を行なっています。また、障がい者雇用を検討している企業、現在障がい者雇用をしている企業のご担当者の方からの雇用相談も受けています。



ご本人の希望条件を踏まえ、基本的には評価実習（アセスメント実習）を実施し、ご自身の強み（ストレングス）や就労上必要な配慮を確認し、障がい者の方と企業の方の間に立って、就労につなげていく業務になります。また、就労面と生活面は密接に関係していて、生活上の悩みや状況が安定就労に影響してしまうこともある為、主に就労に関わる生活面のご相談も受けています。

ご利用に関して、知的障がい、精神障がい、身体障がい、発達障がいなどの障がい種別は問わずにご相談を受けます。また、障がい者手帳をお持ちでない方のご相談にも応じています（障がいの診断を受けている、通院しているなどの条件あり）。

支援を勧める中で状況により、他の支援機関の協力も必要と思われる際には、各市町村の障がい福祉課のケースワーカー、ハローワーク、就労支援事業所、相談支援事業所、医療、教育の方々などとも、ご本人の希望を確認の上、情報共有や支援協力を依頼し、一人ひとりに合ったチームを組んで支援をしています。



左：大箭所長

右：柳川さん

——ぼむの今後や、目指す支援の姿などについて、どのようなことをお考えでしょうか。

大箭： 支援者が最終的に目指しているのは、ナチュラルサポートという状況です。私たちのような支援機関がいなくても、ご本人の自己理解と周囲の方々の障がい理解が進み、一緒に働いていることがごく自然な環境や、お互いに助け合えるような関係性が理想であり、根本的には今も昔も同様です。ただ、そう簡単なことではなく、悩みに直面することはあって、障がい者にとっても、企業の方にとっても、いざという時には「ぼむ」に相談すれば大丈夫だよねという安心感を持つてもらえるような支援機関でありたいと思います。

昨今のご相談の状況としては、障がい種別に関わらず、就労に関わる支援だけではなく、生活に関わる支援の課題が大きく、複雑化・多様化してきている傾向があります。また、ぼむの開所から年数が経つに連れて、障がい者ご本人

やご家族の方のご年齢も上がり、健康面や生活環境の変化などが現れ、就労にも影響を及ぼすような状況が増えてきています。ライフステージによる状況の変化に伴い、必要な時に必要な支援を的確に提供、実施できるような専門性の広がりや、包括的支援のような更なるネットワーク構築の広がりを目指していくべきと考えています。



海外実習生のアズルルさんとぼむの職員とぼむにて記念撮影

——柳川さんから、現所長の大箭さんにエールをお願いします。

柳川： 所長という管理業務は、現場支援とは違い、相談者から受ける感謝の言葉や個別ケースのネットワーク形成などの喜びなどは希薄になっていき、見方によってはつまらなく感じてしまう場面があるかもしれません。しかし、職員たちがそれぞれの相談ケースを通じて、相談者ニーズに寄り添い、地域のネットワークを作っていく、“ここにぼむあり！” “という存在価値を積み上げていく事にやりがいや使命を感じてもらうと、人もうらやむ事業所になっていくと思います。そのためには、対話型のマネージャーを目指して日々職員と向き合い、相談者の利益追求に向けて言葉を重ねていってほしいです。

大箭： 所長になった今、一支援員だった頃の

自分が、見守られた中でいかに自分の思うように伸び伸びと仕事をさせてもらっていたか、困った時には相談に乗ってもらい、大らかな気持ちで支えてもらっていたかを改めて感じます。歴代の所長の方々の存在がとても大きいため、現状自分はなかなかそこにたどり着くことができていないなと日々葛藤がありますが、これまでの自分の経験を念頭に置きながら、現場力がより発揮されるような職場にできるよう努めています。

——就労支援に関わる職員さんにメッセージがあれば、是非お願ひいたします。

大箭： 支援の過程で一喜一憂することは今でもありますが、やはり担当している方の就労が決まるとなてもうれしく、就労支援に携わってきてよかったです。今でも、以前に担当していた方から「今日で就労〇年目になりました」と電話をいただくこともあります。微力ながら自己実現の一端を担えたことは、自分の糧になっています。

ただ、長らく支援に携わっていると、「こうあるべき」という固定観念につながりやすいため、支援者優位の視点にならないよう、相談に来られた方の思いを大切にし、障がい者、ご家族、企業、関係機関などそれぞれの立場に立て物事を考えるように立ち返ることが大切ではないかと思います。一緒に頑張っていきたいですね。

柳川： 社会福祉を取り巻く背景は、制度が変

わってくるなど日々目まぐるしく変遷しています。対象相談者の裾野も拡大していき、支援者の対応力や地域連携を推進していくスキルが求められています。

現場を離れて6年以上経過している私が言うのは釈迦に説法かもしれません、自分一人ができる業務には限りがあります。就労支援という必ず相手がある業務の性質から、事業所内外の職員や関係者と協力し合って、支えあう地域をともに作っていってほしいと思います。これから歴史を作るのは、いま現場で頑張って、苦しんで、喜んでいる皆さんです。失敗を恐れず、自分とチームを大事にして仕事に取り組んでいってほしいと思います。期待しています！

——お忙しい中お時間をいただき、誠にありがとうございました。

ぼむ歴代所長

初代	佐瀬睦夫	平成14年度
2代目	熊井さとみ	平成15年度～20年度
3代目	柳川圭介	平成21年度～28年度
4代目	坂本智	平成29年度
5代目	大箭忠司	平成30年度～現在



海外実習生のアズルルさんと
2ショット



ぼむの職員とBBQで親睦



店舗紹介

餃子いちばん

生活介護事業所である三浦創生舎の従たる事業所として、2020年8月1日に三浦市白石町にオープンした、餃子の製造と販売に特化した施設です。餃子については、もともと三浦創生舎の本体施設の一角で製造販売を行っていました。しかし、開所から10年が経ち顧客も増えてきた中で、キャパシティの限界を感じ始めたところに新規事業の話が舞い込みました。そこで、日中サービス支援型のグループホームとの抱き合せであれば良い、という特例により、餃子の製造・販売所の設置が叶うこととなりました。定員10名の事業所に、現在は4名の利用者さんが日々通われており、職員と一緒にになって餃子の製造販売を通して近隣との良好な関係性も作ってくれています。

「店舗について」

餃子いちばんには厨房だけでなく、ちょっとした店舗も設置することができました。イートインほどの広さではなく、コーヒーを飲むくらい



コーヒースペース



店舗外観

のスペースではありますが、近所の方々が徐々に立ち寄ってくれるようになり、地域交流の場となっていました。またレジ横のスペースを活用して、本体施設の手工芸品や、市内の障がい者活動サークルの製品の展示販売を行っています。



レジ周り

「厨房について」

事業所の新設にともない、本格的な厨房設備に切り替わりました。

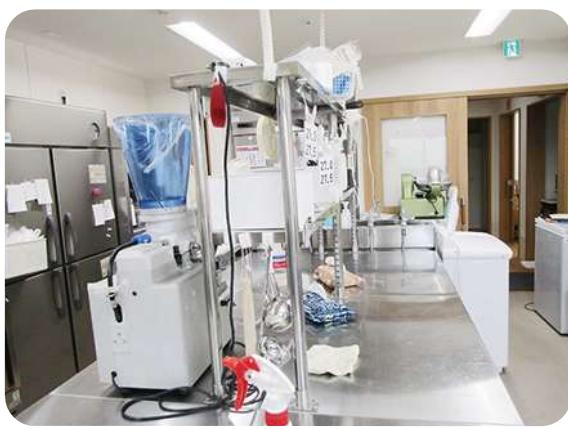
中でも新しく購入した「業務用食洗器」や「プラストチラー」は省力化に大きく貢献してくれています。



餃子革命（餃子成型機）

「餃子革命」

大層な見出しが付けてしまいましたが、餃子を成型するための機械の名称です。掲載した写真は機械購入時の新品の状態（約10年前）のものですが、現在もバリバリと毎日活躍してくれています。時が経ち、現在では1台の機械では製造が追いつかなくなり、手包みでの製造も行うようになりました。利用者さん個々の手包みのスキルは日々向上しています。



厨房内観

「特製餃子」

「肉・野菜・にんにく」の3種類からスタートした特製餃子の製造販売ですが、10年が経った現在では「しょうが・しそ」の2種類も加わり、計5種類を定番として扱っています。秘伝の調

味料はスタート当初から変わらない味を守り続けながら、豚肉は神奈川県のブランド豚「清川恵水ポーク」、餃子の皮は三浦市内唯一の製麺所「丸清製麺の皮」、食材のキャベツは三浦創生舎の近隣農家から仕入れる「三浦キャベツ」へと変化し、少しずつですが地場のうまみを凝縮した餃子となっていました。また、口コミでもお客様が増えるのは「醤油の要らないほど濃厚な味付け」が一つの大きな特徴でもあります、なかなか言葉では伝わらない部分でもありますので興味のある方は是非とも一度ご賞味下さい。ちなみに、にんにくが苦手な方もいらっしゃると思います。「野菜餃子」と「しょうが餃子」はにんにく不使用となっていますので、どなたでも安心して召し上がる味付けとなっています。

「おわりに」

これまで、売り切れを出さないよう需要と供給のバランスを気にしながら餃子の製造販売を行ってきました。おかげさまで大きな広告を打たなくても、口コミを中心に顧客が増え続けてきたことは利用者さんと職員が一生懸命に育んだ賜物と喜ばしい限りです。また新店舗に移ってからは、お客様と製造者とが顔の見える関係となり、さらに新たな顧客の獲得に繋がっています。今後も「三浦市内でいちばんの餃子を目指して」のコンセプトのもと、地域との繋がりを大切に、地域から愛される餃子のお店づくりを進めています。

三浦でいちばんおいしい餃子を目指しました。
肉・野菜・にんにく・しょうが・しその
5種の味の浜松風餃子はいかがですか。

特製餃子

教えて！あなたの事業所（未来わかまつ）ミラクル

前号で掲載した若松保育園より、道路の向かいにある「未来わかまつ」を紹介してほしい、とお声がけいただきました。そこで以下、管理者の青柳真一さんにお話をうかがいました。

Q1: 未来わかまつの事業概要を教えてください。

→未来わかまつは、知的・肢体に障がいがある方のための生活介護事業所です。建物自体は保育園と同時期に完成しましたが、最初はきらら従たる事業所として開所しています。その後、平成25年4月1日に「未来わかまつ」として分離独立し、現在に至ります。

事業所では利用者さんが季節ごとのイベントを楽しんだり、海老煎餅や縫製製品などの自主製品を製作したりしています。自主製品は利用者さん一人ひとりが手作業で製作していますので、一つひとつがどれも違う表情を持った、オンラインの暖かみのあるものとなっています。

インスタグラムも開設していますのでフォローをお願いします！



未来わかまつのインスタグラム

Q2: 若松保育園とはどのような交流をされていますか？

→イベントのたびに若松保育園とのかかわりはありました。保育園の夕涼み会では未来わかまつの商品を出品させていただいたり、未来祭では園児たちにかき氷を渡したり、ハロウィンでは仮装した園児が事業所に遊びに来てくれ、利用者さんからお菓子をプレゼントすることもありました。

実は「海老煎餅」には期間限定商品や、若松保育園だけに提供した幼児用の煎餅もあります。特に「かぼちゃ煎餅」は好評をいただいており、保育園のおやつにも使っていただいている。海老(・・)煎餅じゃないじゃん！というツッコミは勘弁してください…（苦笑）



Q3: 園児さんとのかかわりは事業所にどのような好影響をもたらしましたか？

→利用者さんにとって未来わかまつに来る楽しみにつながっていると思います。

コロナ禍の前は、園児が外遊びしている時に園庭に入れてもらい、車椅子に乗って園児と走ったり、園児が車椅子を押してくれて園庭を走り回ったり、みんな笑顔でかかわっていました。

Q4: 若松保育園の皆さんにひとことお願いします。

→これからも様々な交流を楽しみにしています！

現在はコロナ禍で、今までどおりの交流を図ることが難しいとのことでしたが、ご近所どうし知っているようで意外と知らないことがあるというのは、未来わかまつと若松保育園との関係だけでなく、多くの事業所にいえることのように感じました。



新 施 設 紹 介

● ほるく中原（川崎市）

設置日：2021年7月1日

事業内容：児童発達支援、放課後等デイサービス（多機能型）

住所：川崎市中原区下小田中1-6-11

TEL：044-863-6536 FAX：044-863-6537



● 地域相談支援センターほり（川崎市）

設置日：2021年9月1日

事業内容：相談支援事業（川崎市委託事業）・特定相談・児童相談・一般相談（地域移行）

住所：〒213-0022 川崎市高津区千年924 小川ビル101

TEL：044-789-8421 FAX：044-789-8422



● すいいち城山（相模原市）

設置日：2022年1月1日

事業内容：児童発達支援、放課後等デイサービス（多機能型）

住所：〒252-0105 相模原市緑区久保沢1-5-1

TEL：042-850-1370 FAX：042-850-1372



2021年度助成金受給



ワークステーション・菜の花（大和市）

助成品目 高圧ケーブル・PAS更新工事

助成団体 共同募金会

このたびは、高圧ケーブル・PAS更新工事の助成を賜り、誠にありがとうございます。

電気設備は安全上重要な設備となります。更新工事を行ったことにより、今後も利用者さんが安心して活動できる環境を整えることができます。ありがとうございます。



石上保育園（藤沢市）

助成品目 園舎内階段の手すり増設

助成団体 共同募金会

赤い羽根共同募金の配分金をいただき、保育園の階段に乳児クラス用の手すりを増設させていただきました。小さな園児さんは階段を上り下りしやすくなりお気に入りの様子です。安全対策の強化にもなりました。ありがとうございます。



編集後記

昨今の社会情勢、それにともなう諸々の配慮から、レジオン・ヴィヴィの取材活動においても一定の制約を設けざるを得ない状況が続いている。そのような中でも日々、精力的に活動を継続する各事業所のリアルを、生の声を、いかにしてタイムリーに皆さまへお届けするか、現状に甘んじたり諦めたりすることなく、より良い誌面を提供するため日々改善を図る2022年でありたいと考えます。（平山 正友）

編集委員

上九沢デイサービスセンター 平山 正友
法人本部 青木 久
かたくりホーム 岩野 浩二
みどりのこかげ 村上 幸恵

児童発達支援センター いっぽ 南條 友佳
海老名市立わかばケアセンター 石川 楓
かたくりの里 斎藤 智
湘南台南保育園 舟木 宏美
福祉創造スクウェア・すぷら 西平 里香